

◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりません。不審なカンパ要請には充分ご注意ください。

・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1993.10.9 No.19

ご来場の皆様、お手伝い下さった皆様
ありがとうございました！

～講演会、医師研修、写真展 すべて無事終了～



消防士のお二人、研修医師たちが共に集って 1993.8.29

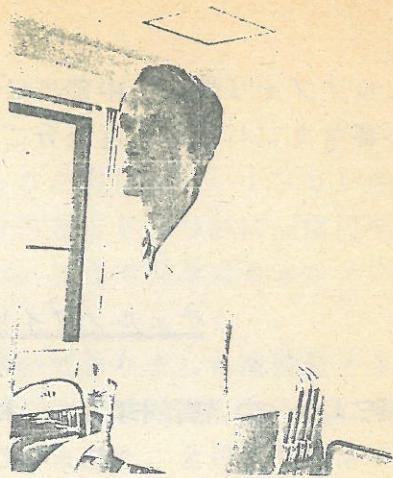
(お別れ会にて 中央は救援・中部メンバーのコスティックさん)

6月末の失明寸前と言われたドミトリー君親子来日から始まって実に2ヶ月間の長い夏がようやく終わりました。ジトーミルからの3名の医師が研修のため来日、チェルノブイリ原発の除染に携わった消防士が8月の講演会のため来日しました。この講演会と平行して写真展を開催、さらには救援物資を送る作業など、チェルノブイリ救援・中部としてはかつて味わったことのないあわただしい経験をしました。

全ての催しについて無事終了できましたのは、協力して下さった病院関係者の方々、ホームステイを受け入れて下さったの方々、イベント開催に集まって下さったボランティアの方々、そして何よりも私達の活動に賛同して救援金を送って下さったり講演会に来場下さった皆様のおかげです。ありがとうございました。



アントニュークさん



オチュカノフさん

チェルノブイリの原発事故の問題をより沢山の方々に知っていただくことが救援を続けていくためにも重要と考え実施した今度の講演会は、8月21日(土)の名古屋での講演を皮切りに中部圏5ヶ所でおこなわれました。そしていずれの講演会も開催準備にあたったスタッフの予想を大幅に越える入場者がありました。

アントニューク氏は、「炉心下のプールから水をくみ出す作業にあたった。上空からヘリコプターで5千トンの砂や鉛、粘土などが投下されていたが、その重みのために溶けた炉心が下のプールに落下し、さらに大規模な水蒸気爆発を起こす恐れがあったからだ。もしそうなれば周辺3百キロは無人の荒野になると言われ必死の作業を続けた。」と語りました。

オチュカノフ氏は、「原子炉周辺の除染や石棺の建設資材の搬入のためのプリピャチ川の港の除染などに従事した。特殊な樹脂液を散布し、放射能塵が飛散しないようにするのだが、火災を起こしている原子炉からは絶えず放射能が吐き出され、やってもやっても放射能は風に乗って飛んできた。放射能に味も匂いもないというのはうそだ。金属の焦げる匂いがし、いやな味がした。放射能で空気がイオン化したからだ。のどもヒリヒリして痛くなった。顔や足が日焼けし、足に紅斑ができて腫れた」と被曝当時の様子を語りました。

尚、講演会の詳しい内容については次回まとめてお知らせします。

オチュカノフさん、検査で網膜に穴。ただちに治療

オチュカノフさんは、名古屋協立総合病院で行われた検査で、網膜に穴が発見され、ほおっておけば数年以内に失明する状態であることが判明しました。このためすぐに光凝固法による治療が行われました。オチュカノフさん一人の症状で除染作業にあたった人々の状況が推察されます。

現地医師3名の研修終了

3名の医師、アンナ・ゴンガルスカさん（女性）、ラリーサ・ブレドネヴァさん（女性）、イワン・レスノイさん（男性）は大阪と名古屋市内の病院で無事約1ヶ月の研修を終了し、消防士二人とともに8月末帰国しました。昨年が続いて2度目、合計6名のウクライナからの医師が研修を受けたことになります。



アンナさん



ラリーサさん



イワンさん

内容：研修期間：8月2日～8月29日

研修場所：アンナさんとラリーサさん

名古屋市協立総合病院を主に南生協病院、中京病院、名古屋大学病院。

イワンさん・・・前半 大阪医科大学病院 後半 愛知医科大学病院。

注射器21万本送付！！ ～救援物資送付のご報告～

○来日した3医師と一緒に持ち帰っていただきました。

内容：医薬品（抗生物質、血圧降下剤、脳代謝改善剤など）

手術用手袋900着、自動血圧計、雑貨品（乾電池、充電器）

合計420万円相当

○シベリア鉄道ーポーランド経由でジトーミルへ

コンテナ1本を借り切り、使い捨て注射器21万本（約300万円相当）を9月2日に発送しました。名港海運、中北薬品の皆様にお世話になりました。これらの注射器はボランティア預金に救援・中部が申請して認められた内容の一部です。

尚、これら救援物資は全て研修医師や現地病院の希望により送りました。

「核の目撃者たち」写真展 入場者1040名

講演会と同時に開催された「核の目撃者たち」～広河隆一・豊崎博光写真展～（8月17日（火）～22日（日）愛知県芸術文化センターにて）は、ほとんどPRができなかったにもかかわらず、6日間にのべ1040名という沢山の入場者があるなどほととするとともに人々の関心の深さに驚きました。またこの写真展には27名の方がボランティアとしてお手伝いいただきました。ありがとうございました。

下記の皆様にご協力いただきました。あらためてお礼申し上げます。

(1) 医療研修でお世話になった方々

みなと医療生協協立総合病院（西崎院長、堀井医師、鈴木課長、菱川様）
南生協病院（柴田院長、中田様）、名古屋大学医学部内科第三講座（各務医師）、中京病院（副院長）、国立名古屋病院（加藤医師）、大阪医科大学麻酔科（兵頭教授、豊田助教授、スーチ・サキ医師）、中北薬品（金子健六様）、広島ジュノーの会、この他各病院の多くの職員の皆様。

(2) 消防士講演会でお世話になった方々

河合塾（岩崎俊司様、山田伸吾様、名古屋教務部沖山様）
沼津市加藤学園加藤正秀様、名古屋市消防局、岐阜市消防局の皆様、ヒューマンネットワーク（原田様）

(3) 医師ホームステイでお世話になった方々

黒川久子様（名古屋市）、森良樹様（枚方市）

(4) 通訳でお世話になった方々

山崎タチアナ様、イエルマチコーバ様、スベトラーナ様、コルド様、ステファン・コスティック様、遠藤克己様、原恵美子様、佐藤規祥様

(5) この他各地でボランティアとして参加して下さった皆様

写真展だけでも27名の方が新たにご参加いただきました。各地でご協力下さった全てのお名前を載せることができません。どうぞご了承下さい

ECCで学ばれる皆様、職員の皆様へ

ECCの地球救済キャンペーンより救援・中部に救援金をいただきました皆様の大変沢山のメッセージを励みに救援を続けてまいります。

*** 芸術劇場コンサートホールで三輪弘美さんのコンサート開催 ***

昨年が続いて三輪弘美さんのコンサートがチェルノブイリ救援・中部などの後援で開催されます。どうぞ愛知県芸術劇場コンサートホールでのソプラノ・リサイタルにご来場をお待ちしています。

日 時：1993年12月4日(土)
 開場午後5:30 開演午後6:30
 場 所：愛知県芸術劇場コンサート
 ホール (地下鉄栄駅 NHK隣)
 入場料：4000円(当日4500円)
 *全当日指定席(当日午後4時より座
 席指定席に取り替え)

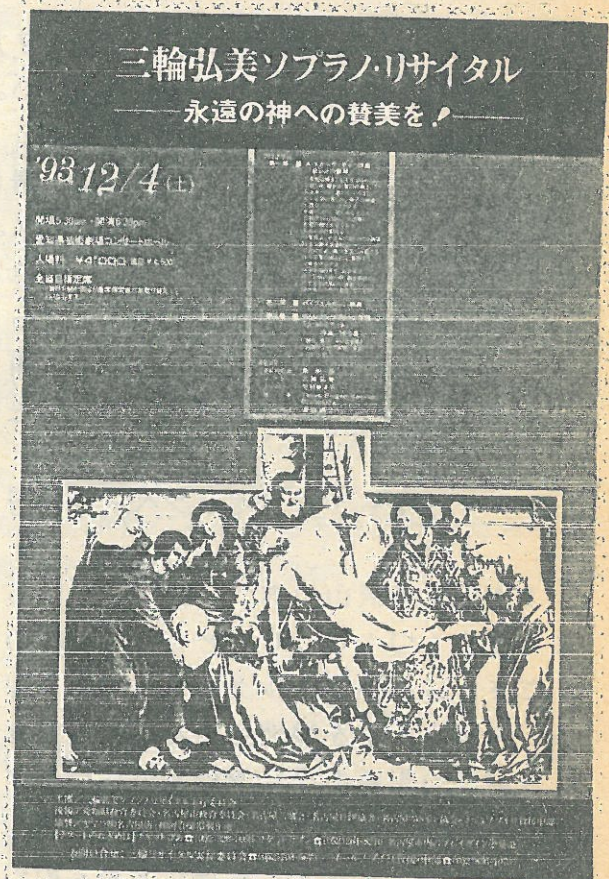
ソプラノ : 三輪 弘美
 メゾソプラノ : 毛利 勢津子
 独奏 : Tokyo Singen kammer Orchestra
 パイプオルガン : 吉田 絹江
 プログラム : 悲しみの聖母 他

主 催：三輪弘美ソプラノリサイタル実行委員会
 後 援：愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・名古屋二期会・
 名古屋日伊教育・名古屋スペイン協会・チェルノブイリ救援・中部
 お問い合わせ：三輪リサイタル実行委員会 チェルノブイリ救援・中部

*** この他の催し物 日進町国際交流協会による「NIA音楽祭」***

日 時：1993年11月21日(日) 14時開演 場所：日進町民会館
 入場料：一般 1,500円(当日1,700円)
 高校生以下1,000円(当日1,200円)
 お問い合わせ：日進町人事秘書課 05617-3-7111
 内 容：インド古典音楽、揚琴、和太鼓演奏。

この他「世界のお茶」のコーナーなども。



*** 救援・中部の本の紹介 「たった一回の原発事故で」

～ウクライナの母たちからの手紙～***

これまで何度かお伝えしていた本が7月末ようやく出版されました。どうぞ購読ください。1冊515円でご注文の方は、515円に送料を51円を添えて下記地湧社まで。また2冊目からは1冊につき10円を加算し、10冊以上は、送料サービス。50冊の場合1割引き。100冊以上は、2割引きとなります。

地湧社：郵便振替口座 東京2-36341

東京都千代田区神田東松下町十二番一号

(ミトモ第二ビル)



たった一回の原発事故で
ウクライナの母たちからの手紙
チエルフライア 著
中野 監

*** 今年もミルクキャンペーンを行います ***

1 昨年以來沢山の方に支持頂いているミルクキャンペーンを今年も行います。ミルク代1口1000円と2000円の二種類あり、一緒にメッセージを送ってくだされば現地にミルクとともに送り届けます。おかげさまでこれまでに計10トンの粉ミルクを現地に送ることができました。

放射能の影響を最も受け易い幼児の成長を汚染されていないミルクにより未来に光を与えてあげたいと思います。締切は年末です。どうぞ協力下さい。

年明けにはミルクを現地に送るための作業が集中します。協力して下さるボランティアの方もいずれ募集したいと思います。

また私達のキャンペーンを真似て「戸別訪問」によりミルク代などと称してカンパを募る不審なグループが報告されています。救援・中部では戸別訪問は一切していませんのでご注意下さい。尚、郵便振込先は最終ページに掲載。

ちょっとひといき 話題あれこれ

現地の医師の間では今ちょっとした英語ブームだそうです。これは救援・中部が英語を日本での研修資格の条件としているためです。通常はロシア語の通訳がついていますが、今年はイワン・レスノイさんのように通訳なしで英語だけで十分な研修を受けられる医師が来日しています。またさすがに来日する医師はどなたも大変優秀で、逆に日本の若い医師の方達が刺激を受けることもしばしばだったとのこと。

声・声・声 (講演会アンケートから)

- 講演会を開いてくれてありがとうございました。そしてごくろう様でした。これからもすばらしい救援活動をお願いするとともに人々に核のおそろしさを伝え安心して生活ができるようになってほしいです。
- (小学校低学年の女の子と思われる方より)
わたしは、こんなにこどもおとなかぞくがみんなおせんされてしまってます。ごいこまっていた。けれどそれをたすけれなかった。

○ここ(講演会場)へ来る前に芸術文化センターへ小学校3年生の子とともに写真展を見て来ました。先日テレビ番組で4才の女の子“カーチャ”が広島へやってきて治療を受けている様子を見てましたので「あの女の子はどこ」と言っ
て白血病の子どもたちを見ていました。末娘は9才を迎えました。チェルノブイリを知らないで産まれてきた子どもたちが苦しみ、またその子どもたちも
と思うといたたまれません。広島でも長崎でも同じでしょうが。・・・

いくつかのご質問にお答えして

Q. チェルノブイリ救援・中部はどんな団体ですか？

A. 1990年春に発足した市民団体で、いかなる政治団体、宗教団体にも属していません。中部地区を中心とした16団体によって作られている団体で、定期的な会議と事務局により運営がされています。国の補助金や企業からの寄付だけに頼らない健全な市民団体として救援を続けていきたいと考えています。

Q. 救援・中部は何故現地の子供たちを日本に呼んで保養させないのですか？

A. この問題については、救援・中部でもたくさんの議論をしています。現地からも日本で治療して欲しいというお母さんの切実なお手紙もたくさん届いており、胸が痛みます。これまでの議論を要約しますと、病気の子供達を招待して治療するにはお金がかり過ぎること(白血病の治療には一人1000万円かかる)、現地には病気の子供がたくさんおり、個々に対応するよりは現地病院に医薬品等を送ったり、遠回りではあっても医師研修等のほうが最終的には効果的であろうと考えられること、等です。しかし、軽い症状の子供は海外で保養することで一時的にせよ元気になる、という報告もあり一概には否定できません。どのような救援を行うかは個々の救援グループの結成のいきさつや環境、個性、力量に応じて違うやり方が取られておりまだまだ試行錯誤の段階と考えています。

*** 皆様の寄付金が一億円を突破しました***

皆様からチェルノブイリ救援・中部に寄せられた寄付金が、1990年4月から今年9月まで通算で106,528,999円となり、ついに一億円を超えました。大半が一般の人々から寄せられたお金という点で日本のチェルノブイリ救援団体としては初めてかと思われます。

尚、スタート以来、長く会計を勤めていただいております亀田隆子さんが今回の会計報告を最後に退任されました。亀田さんの常に誠実なお人柄によりスタッフ皆が安心して救援活動に専念することができました。全員より心からお礼申し上げます。お疲れさまでした。

チェルノブイリ救援・中部 <会計報告> 1993.6.1-1993.9.30

収 入	金 額	支 出	金 額
前期繰越	10,496,557	医薬品代	5,990,319
救援寄付金	4,601,884	顕微鏡3台自動血圧計	940,280
事務所維持費	899,700	救援物資輸送費	780,326
ミルク代等カンパ	499,362	ドミトリ君渡航滞在費	985,109
ボランティア預金	5,770,000	消防士2名渡航滞在費	896,869
講演会協賛入場料	440,528	医師3名渡航滞在研修	2,440,954
本・テレカ等売上	109,700	ビズーク寄付金・雑誌代	196,826
バザー収益	84,500	出版製作費	361,066
パネル貸出料	10,000	写真借用料	195,760
預金利子	83,131	印刷費・コピー費	712,433
		会場費・記録費諸雑費	161,841
		通信費・宅配便代	457,187
		事務所維持・出張費	745,367
		小 計	14,864,337
		次期繰り越し	8,131,025
合 計	22,995,362	合 計	22,995,362

チェルノブイリ救援・中部 (郵便振替口座 名古屋8-108610)

事務局 〒466 名古屋市昭和区楽園町137 1-10

TEL.FAX:052-836-1073 (月、水、金曜日10:00-15:00)

代表:長谷川三知子

(問い合わせはなるべく郵便で、できれば切手を添えた封筒を同封してください)